

肉用牛肥育経営支援プログラムの開発

皆さんは『経営管理』という言葉聞いて、なにを思い浮かべますか？「複式簿記」、「青色申告」、「指標分析」といった単語だけでは、この言葉の持つ意味を半分の半分しか表していません。

まず、取り扱う内容ですが、お金の流れについてだけではありません。経営とは、生産・流通に関わる全てのことがらを対象にします。例えば労働時間や販路、そして家畜や飼料がどのように用いられたかを記帳することなどが必要になります。

次に、これらのデータを集計し現状を把握しただけでは不十分です。その結果を基に経営計画を立て、そのとおりに実行できているかをチェックし、うまく実行できていなければ対策を立てなければなりません。これが経営をコントロールするということです。

実際にはこれらのデータを記帳・集計して、経営状況の把握や将来の予測を行うことは容易ではありません。しかし、肉用牛肥育経営では、簿記のデータの他に、肥育牛の個体別のデータが大きなウェイトを占めるため、これらだけで簡単な分析・計画作成を行うことが可能です（図1）。

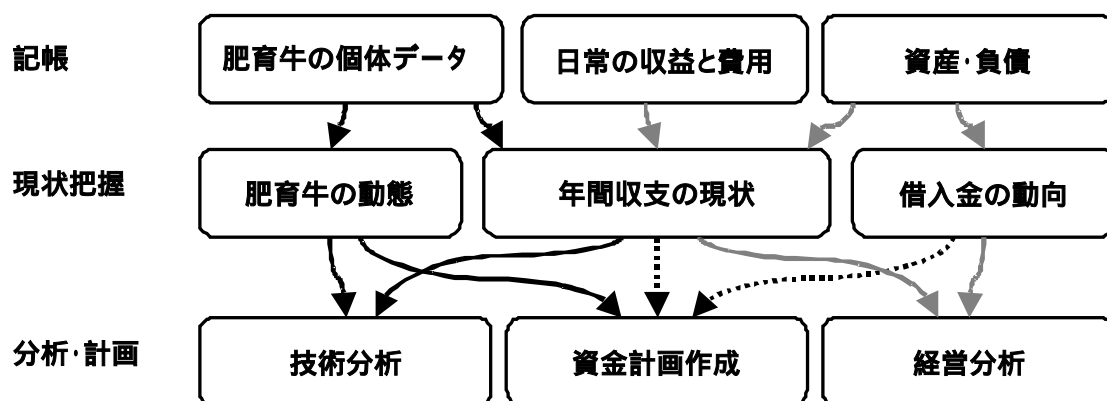


図1 肉用牛肥育経営におけるデータの流れ

それでも、記帳、現状把握、分析・計画と進んでいくためには、各ステージをつなぐ矢印の処理を行わなくてはなりません。「→」線の処理は一般的な簿記ソフトで行うことが可能です。したがって、「→」線以外の処理が簡易に行えれば、各ステージにおける判断がより容易になります。このような考えの下、企画経営部では肉用牛肥育経営支援プログラムの開発を行っています。

現在、「→」線の処理について作成中であり、農家等での試用を行った後、平成13年度末に完成したプログラムを農業振興事務所等に配布の予定となっています。